

小 売 業

業況、売上、採算

今期(2023.10~12)の業況判断DIは27.3で、前年同期(2022.10~12)と比べ50.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

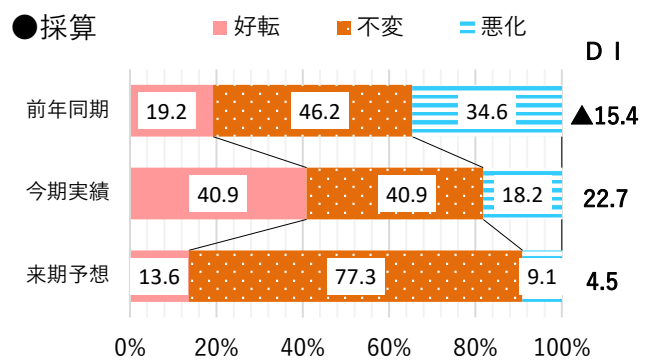
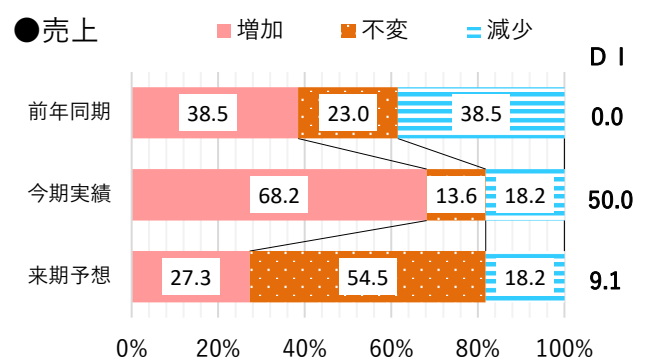
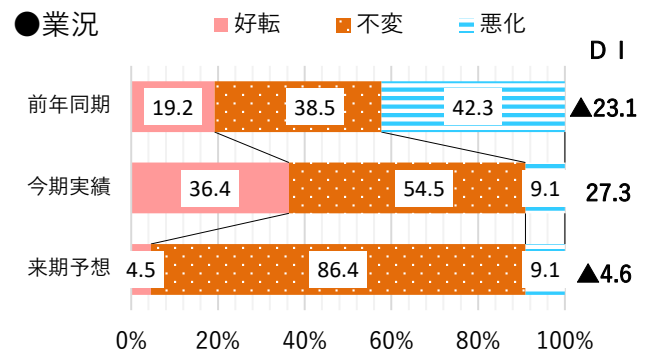
来期(2024.1~3)は、業況が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。

今期の売上高DIは50.0で、前年同期と比べ50.0ポイントと大幅に上昇しました。

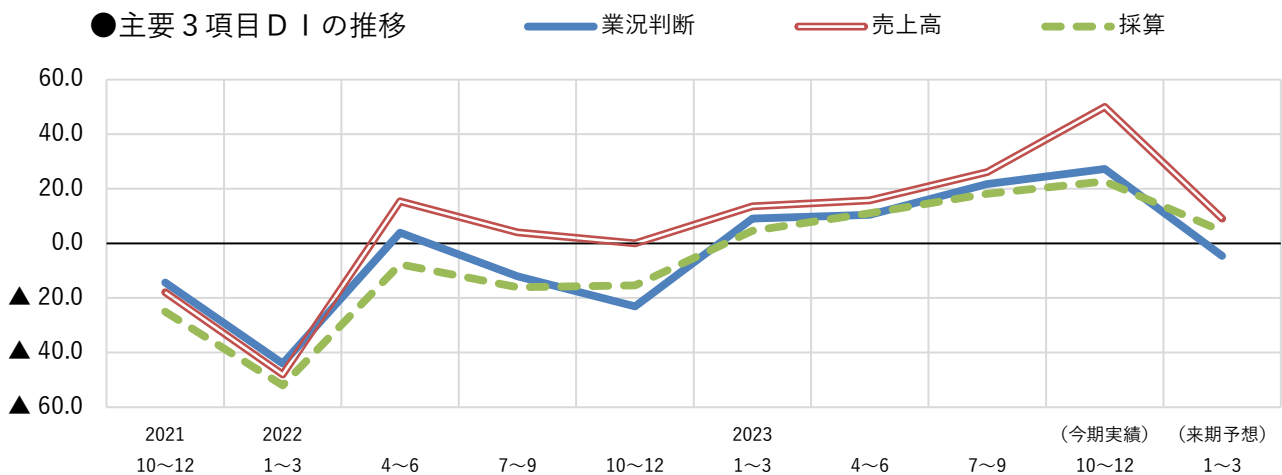
来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは22.7で、前年同期と比べ38.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算の好転傾向が弱まると予想しています。



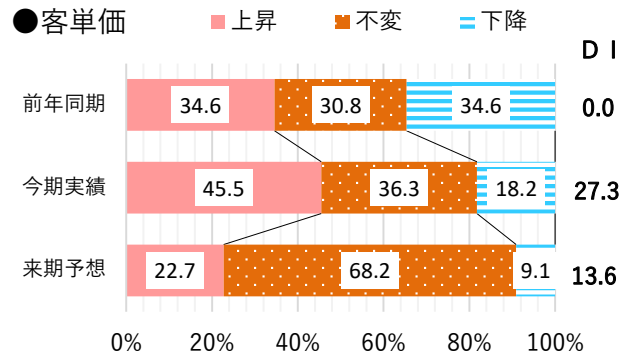
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

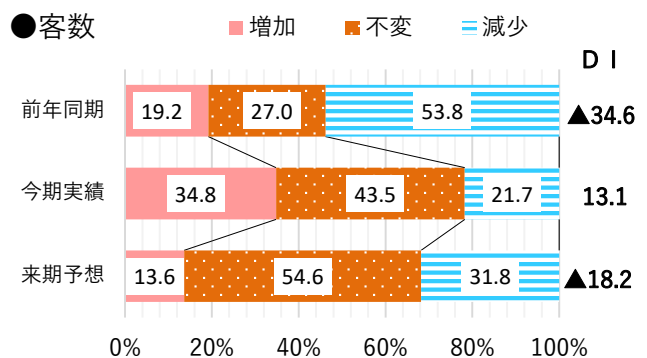
今期の客単価DIは27.3で、前年同期と比べ27.3ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは13.1で、前年同期と比べ47.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

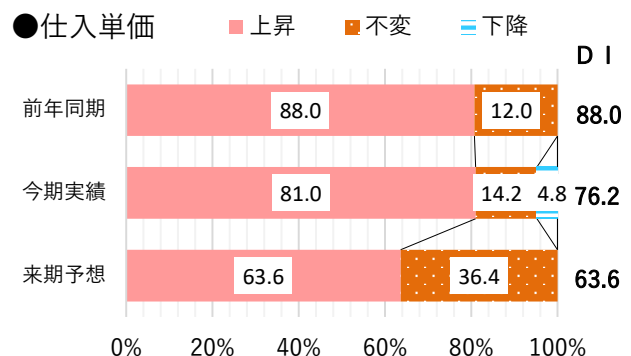
来期は、客数が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

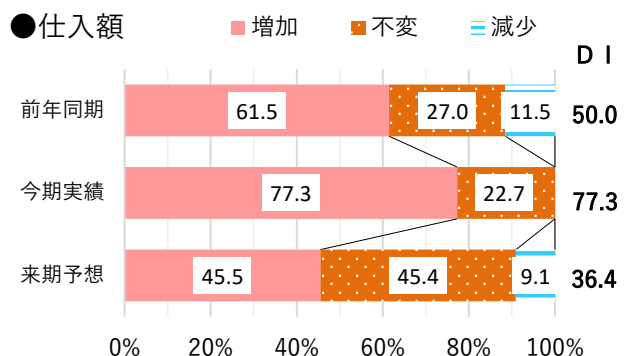
今期の仕入単価DIは76.2で、前年同期と比べ11.8ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



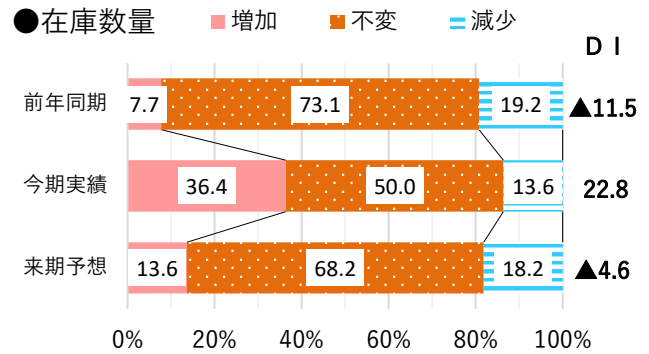
今期の仕入額DIは77.3で、前年同期と比べ27.3ポイント上昇しました。

来期は、仕入額の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは22.8で、前年同期と比べ34.3ポイントと大幅に上昇しました。

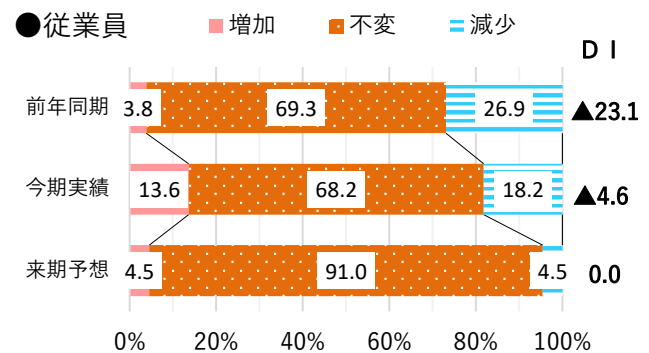
来期は、在庫数量がマイナスに転じると予想しています。



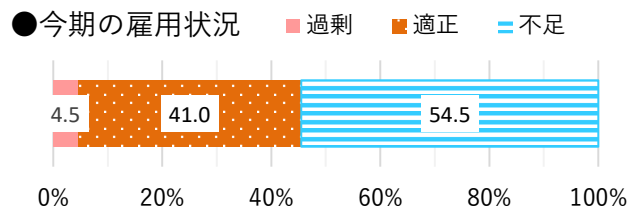
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲4.6で、前年同期と比べ18.5ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.5%、適正であると回答した企業の割合は41.0%、不足していると回答した企業の割合は54.5%でした。



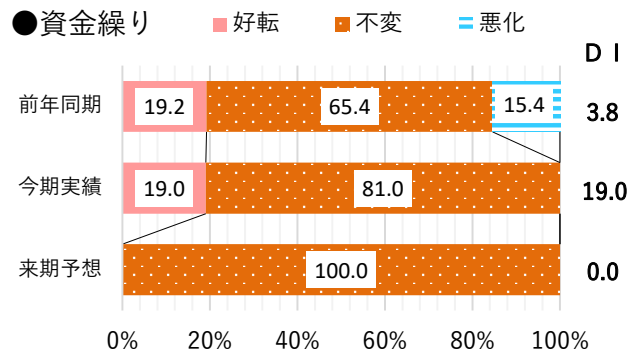
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、31.8%を占めており、54.5%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	2
不変だった	過剰	1
	適正	7
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

資金繰り、設備投資

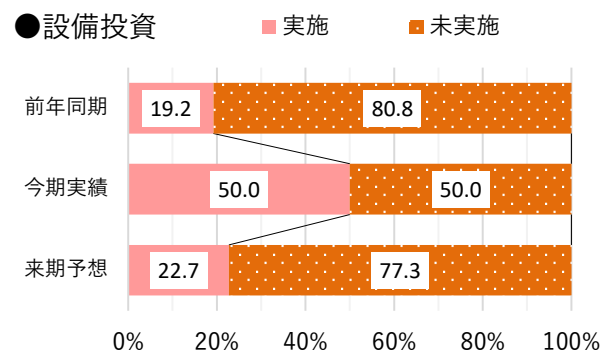
今期の資金繰りDIは19.0で、前年同期と比べ15.2ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



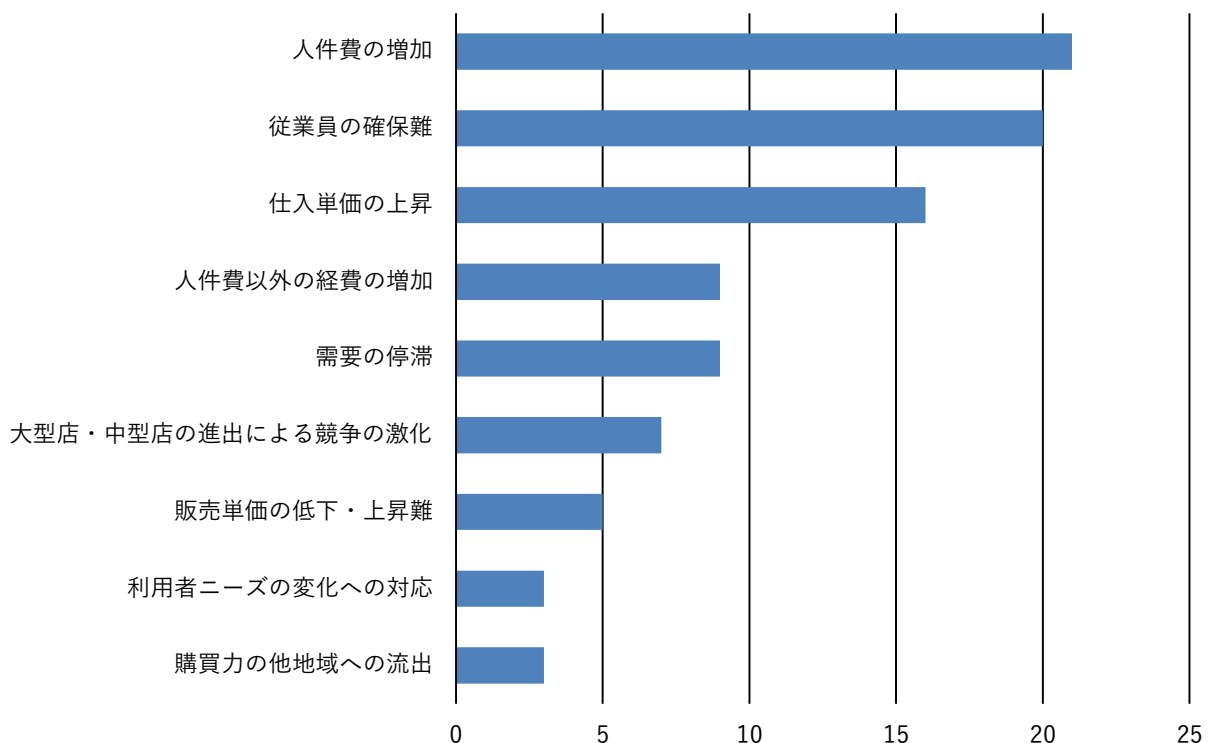
設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べ30.8%上昇しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」、「販売設備」、「OA機器」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は22.7%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「人件費の増加」、2位が「従業員の確保難」、3位が「仕入単価の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 飲食店や宿泊施設が好調で、売上は増加傾向だが、店頭の小売販売も増加している。大きな設備投資をしたため、効率が上がり、多様化するニーズに少しずつ応えられるようになった。猛暑により高品質の商品が極端な減少傾向にあるが、金融機関の協力をいただいて多めに仕入れることができた。(食料品)
- 売上が増加した。原材料や仕入価格の高騰により、ディスカウント店の販売価格が上昇し、当店の販売価格との差があまり感じられなくなったことや、プレミアム商品券の効果も少なからずある。(大型店)
- 売上が増加した。(大型店)
- 原材料、包装資材の値上げが止まらないため、販売価格の引き上げを考えている。最低賃金も引き上げられたことで、利益が圧縮されている。(菓子製造小売)
- 売上が好転した。格差社会化が進んでいる影響や地域の特性から、高額商品の売上は伸びず、低価格帯の商品が売れている。(衣服・身の回り品)
- 仕入価格が急激に上昇した。(衣服・身の回り品)
- メーカーの部品供給が不安定なため、納期も安定しない。(自動車)
- 受注車両の納期が早まってきた。(自動車)
- 客数は減少しているが、売上は微増傾向のため、業況は不変と判断する。(家電量販店)
- 各商品の大幅な値上げにより、市民の購買意欲の大幅な減退が見られる。プレミアム商品券のおかげで前年同期比99～100%弱の水準まで売上を伸ばすことができた。(コンビニ)
- 人材確保が難しい。(コンビニ)

[来期の業況について]

- このままの売上額を維持できれば良いと考えているが、新規得意先の開拓は努力したい。猛暑による品不足から仕入単価が上昇しているため、採算は不透明感がある。(食料品)
- 仕入価格の高騰はある程度落ち着くと思われるが、人件費の負担が大きくなる。(大型店)
- 売上の微増を予測する。(大型店)
- 販売価格の引き上げにより利益の確保を考えているが、客離れの心配もあり、どの程度値上げをするか悩みどころだ。(菓子製造小売)
- 食品の値上げを実感する市民が増え、身の回り品の需要は落ち込むと思われる。(衣服・身の回り品)
- 仕入価格の急上昇が続くと思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 状況はあまり変化しないと思われる。(自動車)
- 物価高による消費低迷を懸念する。(自動車)
- 季節需要が見込まれるが、客数は減少傾向なので、業況は不変と予想する。(家電量販店)
- 人手不足が続くと思われる。(コンビニ)